

食細胞の活性酸素産生活性に影響を及ぼす フィトケミカルのスクリーニングと その作用機作の解析

演者：菊池 秀彦 先生

尚絅大学短期大学部 食物栄養学科 教授

2023年2月13日（月） 3:00PM-4:00PM

ハイブリッド開催

テレカンファレンスルーム（臨床研究棟2F）
オンライン（Zoom）

※会場の座席数には限りがあり、先着順となります。

対象：教育職員、医学系大学院生、研究者等

事前参加登録

申込締切 2月10日（金） 12:00

食細胞（好中球やマクロファージ）は細菌等の侵入に際して感染局所へと遊走し、これらを貪食・殺菌することにより感染初期の生体防御反応を担っている。殺菌に際しては形質膜に存在する電子伝達系の一種である活性酸素産生系（NADPHオキシダーゼ）が重要な役割を果たしており、食細胞は貪食した細菌等に活性酸素を浴びせて殺傷する。この系の重要性は、これを欠損した慢性肉芽腫症疾患の患者が重篤な感染症を繰り返すことから明らかである。

演者は1990年代から食細胞の活性酸素産生系に関する研究を断続的に行ってきたが、2015年に現職場に移って以降は食品に含まれるフィトケミカル（植物が生産する生理活性物質）がこの系の活性に及ぼす影響について研究を進めている。

今回のセミナーでは、食細胞の活性酸素産生系の概要を解説した後、演者の研究成果について2014年以前と2015年以降とに分けて紹介する。

世話人 三室仁美（グローバル感染症研究センター教授）

セミナー問合せ先

大分大学グローバル感染症研究センター総務係

TEL 097 (586) 5409

E-mail glocal@oita-u.ac.jp

The seminar will be held in Japanese.